

日本の児童文学

1

総論

菅 忠 道 著

大 月 書 店

かん ただ みち
菅 忠 道

1909 年東京に生まる（出身・北海道）
東京帝国大学文学部教育学科中退
雑誌「教育」（岩波書店）編集部、雑誌「子
供の広場」（新世界社）編集部などに勤務
後、著述を業として現在に至る
日本児童文学者協会評議員、日本子どもを
守る会副会長、「子どものしあわせ」の編
集にたずさわる
現住所 東京都板橋区前野町 1-37-4-103

日本の児童文学 1 総論（増補改訂版）

1956 年 4 月 5 日第 1 刷発行	至 2500
1966 年 5 月 14 日増補改訂版第 1 刷発行	
1979 年 7 月 5 日第 6 刷発行	

著者 © 菅 忠 道

発行者 平 智 享

〒113 東京都文京区本郷 2-11-9	印刷 三 陽 社
発行所 株式会社 大 月 書 店	製本 中 條 製 本
電話（営業）813-4651（編集）814-2931 振替 東京3-16387	

本書の内容の一部あるいは全部を無断で複写複製（コピー）
することは、法律で認められた場合を除き、著作者および
出版社の権利の侵害となりますので、その場合にはあらか
じめ小社あて許諾を求めてください。

まえがき

日本に、近代的な文化意識で児童文学が生みだされてから、ともかく七十年にはなる。明治の児童文学の多くは、国語・国字問題の制約もあって、いまでは子どもたちの読書圏外に去ってしまった。大正年代に、あれほど栄えた童話・童謡も、今日に生きながらえているものは、そうたくさんはない。また、プロレタリア児童文学となれば、時勢の重圧で、全盛期のころから普及をさまたげられていた。こうみてくると、親が感銘をもって読んだ作品を、子どもの世代が受けついで読むというつながりは、断ち切れられ通しであったといえる。

子どもの本は、おとなの本にくらべて、消耗度もはげしい。よく読まれたものほど、はやく屑屋の手にわたってしまったわけである。もちろん、長い生命をもって、重版されたり改装されて、くりかえし子どもの読書圏に入ってきた作品も、ないわけではなかった。作品に芸術的価値があればこそではあるが、そうしたばあいも、しばしばその作者の文壇の名声が大きくものをいっていったといえるだろう。

日本に、これまで、児童文学史らしいものがまるでなかったことには、ここにあげたような事情が、多かれ少かれ関係していた。まとまった児童文学史のないことが、また逆に、遺産のうけつぎを困難にし、いつでも新規まき直しのようなかたちで児童文学の発展を考えねばならなくさせてきた。

おとなの世界の文学史は、作品論・作家論の豊かさや、問題史的な個別研究の深さに裏づけられて、多種

多様な成果をあげている。ところが、児童文学史は、基礎資料さえとのわぬという乏しい蓄積の上で、仕事を進めなければならない。そういうなかでは、とりあえず、見とり図のようなものでも、提示しておくことが必要だと思って、わたしは、この『日本の児童文学』をまとめあげた。

作品論・作家論の上に、本格的な児童文学史をきずきあげる仕事は同学の先輩や若い研究者の手で、これから進められていくことであろう。わたしも、及ばずながら努力をつづけたいと思っている。

この『日本の児童文学』で、わたしが関心をそそいだのは、人と情勢と時代の関係であった。いいかえれば、近代日本の社会文化史的な背景のなかで、児童文学の発展過程をあとづけてみようというのが、わたしの課題であった。叙述のしかたにおいては、わずらわしいくらい、それぞれの時代の資料に、ものをいわせようとした。資料そのものの断片なりでも紹介しておきたい気持からである。（なお、引用に当っては、かなづかいだけは改めて、読みやすくしたことを、一言おことわりしておく。）

児童文学史というには、あまりにも繁簡いりみだれた、まとまりのないものである。当然ふれるべき作家や作品にも、ふれないでしまったことが多い。どちらかといえば問題史的な展開をとった叙述のためではあるが、心のこりなことであった。また、現代については一応の展望に止まってしまったし、付録の年表でも戦後は割愛せねばならなかった。いずれ、続編ともいふべき『現代の児童文学』をまとめるようなときに、おぎなひをつづけたいと思っている。

一九五六年三月二十二日

増補改訂版のはじめに

この『日本の児童文学』の初版が出てから十年になる。はじめての体系的な日本児童文学史だといっているので過分な評価を受け、版を重ねてきたが、とくに学生諸君をはじめとする若い世代にひろく読んでもらえたのは、著者としてもっともううれしいことであった。

ところで、この十年の間に、日本の児童文学状況には大きな変化が生じてきた。テレビや漫画に代表されるマス・コミ児童文化の圧倒的な支配のもとに、一面では芸術的児童文学の危機がさげばながら、他面では長編創作が続出し、諸ジャンルにわたって多様な創造的発展がみられるようになったのである。それについて、日本の近代児童文学伝統批判や児童文学における思想と創作方法をめぐる論争も、さかんになってきた。いいかえれば、近代以降の日本の児童文学の歴史が、改めてかえりみられねばならぬ切実な課題になってきたことを意味する。

わたしとしても、こうした課題にこたえて、本書の増補改訂を志し、発行社の厚意ある支援のもとに着手したのだが、多忙と遅筆におし流されながら、その仕上げに三年もかかるありさまだった。

部分的な訂正・補筆は随所でおこなったが、増補の重点はつぎのとおりである。

◇ 浜田広介・宮沢賢治の童話文学の位置づけと問題点

◇ 戦中の児童文学における芸術的抵抗の姿と問題点

◇大正・昭和前期の大衆児童文学の状況と問題点

◇児童文学戦後史の全面改訂

◇戦後児童文学年表の追加

その結果、前著より二〇〇ページも分厚いものになってしまった。前著に続刊の希望を述べた『現代の児童文学』がまとまるまでには、ちょっと手間どりそうなので、他の章とのバランスは考えずに戦後史を構成したわけである。児童文学の現代史過程を、具体的な資料を引用しながら問題史的に展開したために、予期以上に長くなってしまった。しかも童謡・詩、劇文学の分野にはふれることができないでしまった。この点、読者各位のご了承を得ておきたい。

巻末の年表については、前著でも鳥越信氏の協力を得ていたが、この増補改訂版において改めて多大のお世話になった。ここにあつくお礼を申しのべる次第である。

著者のわがままをゆるして、物心ともに惜しみない支援を賜った大月書店の小林直衛、小川亮、松田貞男の諸氏の厚情は、まったく感謝にたえない。わたしとしては、その厚誼に甘えながら、古代以降の本格的な『日本児童文学史』の完成をめざして、この上とも努力を重ねていきたいと念じている。これも何年先になることやらおぼつかない話だが、読者各位にこの旨を宣言することによって、わが身を義務づけることにしよう。

一九六六年三月末日

目次

I 日本の近代と子ども

1 児童観のゆがみ	1
-----------	---

封建制と児童観(二) 近代的児童観の未成熟(三)

2 家族制度の制約	4
-----------	---

家と子宝(四) 近代的家庭観の未成熟(六)

3 教化の根幹としての小学校	7
----------------	---

義務教育の整備(七) 教育勅語(八)

4 文学観	9
-------	---

II 少年文学の誕生と成長

1 文明開化と少年の読書	11
--------------	----

新旧雑居の読物(一)「顕才新誌」(二)『明治孝節録』(四)

2	「少年書類」の新生……………	一六
---	----------------	----

新しい少年雑誌の続出（二六） 編集者の抱負（二八） 教育界
と少年書類（三二）

3	『こがね丸』をめぐる……………	三三
---	-----------------	----

『こがね丸』の反響（三三）『こがね丸』と『小公子』（三四）
『こがね丸』の文体論争（二六）

4	新しい文学的読物……………	三〇
---	---------------	----

「少年文学」（三〇） おとぎばなし的な作品（三二） 写実的な
少年小説（三三） 民族意識と少年文学（三九）

III おとぎばなしの確立

1	児童雑誌の発達……………	四二
---	--------------	----

2	巖谷小波の役割……………	四五
---	--------------	----

おとぎばなしへの非難（四五） 小波の主張と妥協（四七）

3	巖谷小波の業績……………	四九
---	--------------	----

国民童話の再編成（四九） おとぎばなしの表現（五一） 言語
改革（五四） おとぎばなしの趣向と主題（五〇） 世界名作の
移植（六〇） 少年文学の将来（六三）

4 教育界と課外読物…………… 四

ヘルバルト学派の童話教育（六五） 「童話に関する研究」（六五）
課外読物をめぐって（六七） 小松原文相の方針（六六）

IV 過渡期の児童文学

1 時代の重圧をめぐって…………… 七一

冬の時代と世紀末（七一） 近代的児童文学の担い手たち（七一）
明治末年の少年たち（七五） 児童文学の分裂（七六）

2 ジャーナリズムと児童文学の動き…………… 七六

雑誌の発達と荒廃への傾斜（七六） 通俗少年少女小説の隆
盛（七九） 新しいおとぎばなし（八〇） 文学的読物のシリ
ズ（八二） 自然主義作家の児童文学（八五）

3 冒険小説の人気…………… 八六

冒険小説の変質過程（八六） 押川春浪の武俠小説（九二） 民
族意識と国権主義（九四）

V 童心文学の開花

1 「赤い鳥」による転機…………… 九七

文芸童話の隆盛（九七） 創作童話の立ちおくれ（一〇一）

2	童心主義の意義と役割	103
3	社会的現実との対決	104
	時代の苦悶 (107) 「赤い蠟燭と人魚」 (107) 子どもをめぐる封建性 (110) 童話における社会主義 (113)	
4	文芸と教育	114
	国家教育との対決 (115) 文部省の禁圧的な方針 (116)	
5	童話の理論的研究	117
	童話研究の発達 (117) 童話理論の特徴 (118)	
6	童心文学の成果と限界	119
	童謡をめぐって (119) 童心主義による子どもの開発 (120) 童話をめぐって (121) 童心文学批判の動き (126)	
7	童心の花園の外で	126
	民衆娯楽 (127) 児童文化問題 (129) 社会教化と実演童話界 (131)	
8	童心文学を圧倒するもの	132
	児童文化の荒廃 (132) 児童出版の変動 (133) 「立川文庫」 (134) 少年少女雑誌のタイプの変遷 (136)	

9	大正年代の大衆児童文学……………	一五
---	------------------	----

「少年倶楽部」の創刊と進出過程（一五） 世界名作を下敷きに（一五） 大衆文芸の勃興と少年少女小説（一五）

VI プロレタリア児童文学運動の展開

1	児童文学をめぐる情勢……………	一七
---	-----------------	----

社会情勢（一七） 講談社文化による支配（一五） 円本時代（一五）

2	プロレタリア児童文学の成立……………	一六〇
---	--------------------	-----

階級的新聞雑誌のコードモ欄（一六〇） ミューレンの童話（一六一） 初期のプロ童話・童謡（一六四） 「赤い鳥」所載の社会性ある作品（一六七）

3	プロレタリア児童文学の発展……………	一六八
---	--------------------	-----

新興童話作家連盟（一六九） 榎本楠郎の理論活動（一七〇） プロ文学の一環としての児童文学（一七五） 「少年戦旗」（一七五） 労農少年運動・教育運動とプロレタリア児童文学運動（一七八） プロレタリア児童文学の不振（一八〇）

4	アナ系のプロレタリア童話運動……………	一八四
---	---------------------	-----

自由芸術家連盟の機関誌「童話の社会」(一八四) 芸術派童話をめぐる(一八六)

5 運動が果した役割と欠陥……………一八八

理論的な根本問題(一八六) 統一と分裂をめぐる(一九三)
セクト主義による傷手(一九五)

VI 危機の児童文学

1 児童文学の冬芽……………一九九

2 リアリズム童話の形成……………二〇一

坪田譲治と児童文学(二〇二) 「童話文学」派のリアリズム
童話(二〇三)

3 文学童謡の運動……………二〇五

『赤い鳥童謡集』の成果と意義(二〇五) 「チチノギ」の童謡
詩人たち(二〇六) 時代と文学との二重の悩み(二二一)

4 プロレタリア児童文学の解体後……………二二四

転向期と児童文学(二二四) 転換期における榎本楠郎の役
割(二二六) 社会主義リアリズムと生活主義・集団主義童

話(二三〇) 「掃除当番」「お父さんの仕事」「青空の下の原
っぱ」(二三二) 児童文学の早春(二三四)

5 生活綴方運動……………二二〇

生活綴方運動の形成過程(二三〇) 生活指導と児童文化活動
(二三二)

VIII 孤高の童話文学と大衆児童文学

1 孤高の童話文学……………二二六

「赤い鳥」と広介・賢治(二三六) 日本の近代童話の典型を
きずいた広介・賢治(二三七)

2 浜田広介の童話文学……………二四〇

「ひろすけ童話」(二四〇) 浜田広介とアンデルセン(二四二)
童話的小品(二四六)

3 宮沢賢治の童話文学……………二四七

賢治童話が世に出るまで(二四七) 宮沢賢治とトルストイ
(二五〇) 賢治童話の特徴(二五五)

4 「少年倶楽部」をめぐる……………二五八

大躍進の誌面と新しい読物(二五〇) その後の展開過程(二六二)
「のらくろ」と「冒険ダン吉」(二六六) 「少年倶楽部」が果
たした役割(二七〇)

IX 戦時下の児童文学

1 長期戦の重圧……………二七

戦争前期の情勢(二七二) 戦争後期の情勢(二七九)

2 戦争と児童文学の復興現象……………二六

児童文学の戦時色(二八二) 子どもを描いた文学作品の隆盛
(二八二) 内務省の児童図書浄化措置(二八四) 生活主義童話
のスケッチ化(二八六) 生活主義童話の風俗小説化(二九〇)

3 抵抗と転向の基調……………二五

人的資源としての児童観(二九三) 生産力理論と児童文化
(二九五)

4 児童文学の自壊……………二〇

児童文学者の戦争観(二〇〇) 聖戦意識の根源(二〇三) 少国
民文学をめぐって(二〇六)

5 児童文学における芸術的抵抗……………三〇九

少国民文化協会文学部会の方針（三〇九） 芸術的抵抗の意味
と役割（三一四） 国策的児童文学の中で（三一六） 芸術的抵抗
の諸相をめぐって（三三三） 「転向形態としての児童文学化」
について（三三二）

X 戦後の児童文学

児童文学戦後史の時代区分について（三三三）

〔第一期〕

1 民主主義的児童文学運動……………三四〇

児童文学者協会の結成（三四〇） 戦争責任追及問題（三四四）
新児童雑誌の創刊と児童文学の創造活動（三四七） 出版動向
と児童文学書（三五三）

2 民主的・芸術的児童文学の復活……………三五五

再出発時の児童文学者の主体性と戦争責任感（三五五） 戦後
の児童文学における「戦争と平和」の問題（三六〇） 児童文
学におけるリアリズムの前進（三六四） 主題の積極性と芸術

的形象(三七) 社会諷刺的童話と「無国籍童話」(三七六)
戦後の児童文学の立ち直りかた(三七〇)

3 児童文化の荒廃と児童文学の危機……………三七九

児童文化の逆コース的風潮(三七九) 児童文学における大衆
化の試み(三八四)

〔第二期〕

4 戦後児童文学の転換期……………三八六

創作児童文学の慢性的不況(三八六) 児童文学の創造と評価
(三九〇) 転換期における児童文学運動(四〇〇) 「少年文学宣
言」をめぐる論争(四〇〇) 遺産の整理と歴史的研究(四二一)
評論・理論活動の展開(四二三) 文学教育の実践と理論(四二〇)

5 マス・コミと児童文化・児童文学……………四三三

マス・コミの飛躍的な発展(四三三) 児童文化における軍国
主義の復活(四三三) マス・コミと児童文化(四三五)

〔第三期〕

6 マス・コミ時代の児童文学状況……………四三〇